

## 令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立東濃特別支援学校

学校番号	116
------	-----

### 自己評価

校訓 学校教育目標 願う子どもの姿	輝くいのち、共に生きぬく ・子どもたちの命を守り、願いや夢を実現する教育を実践するとともに、将来の社会参加や生活自立を可能にする教育活動の開発と創意に努める。 「丈夫な子」「明るい子」「努力する子」
評価する領域・分野	小学部 教育活動、個別の指導計画、保健・安全管理、組織運営保護者・地域連携
現状及びアンケートの結果分析等	・教員間で連携を図り、児童の指導にあたっている。 ・教員の専門性向上に向けた、校内外における研修に充実が求められる。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	家庭・学校生活に関する基礎的能力や意欲を育てる。 ・児童の力が発揮できる授業の工夫に努める。 ・地域と連携を図り、友達とかかわり合える活動の工夫に努める。 ・家庭や医療機関と連携し、健康や安全に関する指導の充実を図る。
重点目標を達成するための校内組織体制	・検討の場：主任会、教科会、学部会 ・連携：教務部、生徒支援部、研修部、地域支援センター部
目標の達成に必要な具体的取組	・友達とかかわりや体験的な学習を促進する教材教具、および学習活動の工夫。 ・保護者や関係機関との連携を強化し、個別の指導計画等を有効に活用する。 ・日常生活において、意欲的に体を動かす活動の確保をする。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・学校評価アンケートおよび職員アンケートの結果。 ・児童の様子、および個別の指導計画の目標達成状況。 ・学年、学部会での検討結果。
取組状況・実践内容等	・連絡帳、電話、保護者懇談会、連携会議等を通じて、保護者や関係機関と情報共有を行い、指導や家庭支援につなげた。 ・校内外において、児童や地域の方とかかわり合える交流活動を実施した。 ・体育の授業に加え、休み時間等を活用し体を動かす時間を確保している。
評価の視点	評価
① 児童の様子（実態把握、学習課題、個別の指導計画等の目標の達成度等）	A (B) C D
② 職員の取組状況（教材等の工夫、連携、協力体制）	(A) B C D
③ 保護者、地域との連携の状況	A (B) C D
成果・課題	総合評価
○学級だけでなく学年の仲間とかかわりあえる活動を増やしたことで、児童の仲間意識が高まってきた。 ○学習場面でICTを活用し、児童の興味・関心や学習への期待感を高めることができた。 ○児童や家庭への支援において関係機関と早期に連携し、相談や支援会議等を通して適切な支援につなげることができた。 ▲引き続き児童一人一人が個々の力を発揮できる授業づくりに努める。必要がある。 ▲日常生活を含め、安全に関する学習のさらなる充実。	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	・集団の中でも個の課題を意識しながら、児童の力が発揮できる授業づくりや改善に努める。 ・日常的に健康や安全にかかわる学習に取り組み、活動内容の工夫を継続する。

評価する領域・分野	中学部 教育活動、保健・安全、組織運営、家庭・関係機関との連携
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の支援方法について、保護者や関係機関と積極的に連携し、生徒の実態を的確に捉えた体験的な活動を計画、実践できている。</li> <li>・教育活動について、保護者へより分かりやすく伝えるための工夫が必要である。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校段階で積み上げてきた基礎的な力を学習や生活の場で生かし、変化に対応できる力を育てる。</li> <li>・心身の成長に関心を持ち、健康で安全な生活を送るための力を育てる。</li> <li>・集団生活の中で、状況や相手を理解し、自分の考えを表現しながら他者とかかわる力を育てる。</li> <li>・自分の役割を継続的に実行し、目標をもって生活や学習に取り組む力を育てる。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態把握に基づいた支援や行事遂行のため、各単元実施前後での検討や共通理解を図る機会を設ける。</li> <li>・学校生活全体において、生徒が自らの役割を継続的に担うことができる場を設定する。</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しのもちやすい環境設定や、自分の気持ちや思いを伝えるためのツールの作成・活用。</li> <li>・実態に応じた学習目標の設定と、それに基づく授業計画の実践。</li> <li>・ダンスやランニング、体操等を通じた継続的な体力づくり。</li> <li>・コアティーチャーや医療的ケアにかかわる職員と連携した、障がい特性に応じた支援の実践。</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケート、職員アンケートおよび意見。</li> <li>・保護者懇談会や連絡帳等を通じた保護者の意見・感想。</li> <li>・生徒へのアンケート結果および活動の様子。</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境設定の工夫や個々の実態に合わせたツールの作成により、生徒が見通しをもって活動し、成功体験を積み重ねることができた。</li> <li>・学習目標を実態別に細分化し、習熟度別グループ等での授業を計画、実践した。</li> <li>・朝の自立活動において体力づくりを継続的に実施した。</li> <li>・重度障がいや視覚障がいのある生徒への対応について、関係職員と連携し、専門性の向上を図った。</li> </ul>
評価の視点	評価
① 実態に応じた支援、指導の検討、実践ができているか。	A (B) C D
② 授業、行事等において、PDCA サイクルができているか。	A (B) C D
③ 保護者との情報共有、共通理解が図られているか。	(A) B C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>○継続的な運動により、体力の向上や運動に対する抵抗感の軽減が見られた。</li> <li>○生活単元学習において授業の流れを統一したことで、生徒が見通して主体的に取り組む姿が見られた。</li> <li>○重複障がい学級と知的障がい学級の学習や行事でのかかわりを計画的に実践することができた。</li> <li>▲生徒の体調や様子を細かく観察し、実態に合わせた活動時間や内容の検討をさらに進める。</li> </ul>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループや学年だけではなく、学部全体で共通理解を図りながら系統的な授業の計画・実践を行う。</li> <li>・定着してきた単元計画を基盤とし、引き続き教材の製作や支援方法の工夫を積み重ねる。</li> </ul>

評価する領域・分野	高等部 教育活動、進路支援、組織運営、家庭・地域連携
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容や生徒との関係構築について、一定の評価を得ている。</li> <li>・体罰の防止、いじめに関する項目では「わからない」の回答も見られる。周知が難しい項目ではあるが、可視化による家庭への周知と連携を深める必要がある。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の生徒の実態に即した支援の工夫。</li> <li>・生徒、保護者のニーズを反映した教育課程の検討。</li> <li>・生徒、保護者の進路希望や実態に合わせた進路支援の充実。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種会議（主任会（月1）、学年会（適宜）、教科会（年3回）、学部会（月1回）の定期的かつ効果的な開催。</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議や日常的なコミュニケーションを通じた、情報共有と支援検討。</li> <li>・作業学習および現場実習の充実を図り、社会的自立を促す。</li> <li>・生徒の日常の姿を丁寧に観察し、適切な支援につなげる。</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者による学校アンケート評価の結果。</li> <li>・実習先事業所等からの評価。</li> <li>・実習、学校行事、授業等における生徒の取り組む姿勢。</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業グループごとに適宜相談の場をもち、柔軟に授業を展開した。</li> <li>・主任会、学部会において来年度に向けた教育課程の検討を重ねた。</li> <li>・保護者との連携に基づき、生徒の特性に合った実習先の設定や支援を行った。</li> </ul>
評価の視点	評価
①個々の生徒に対応した支援の工夫	A (B) C D
②教育課程の検討	A (B) C D
③学部内および保護者との情報共有	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>○宿泊学習や修学旅行等の行事を計画的に実施し、生徒の協調性や社会性を伸ばさせることができた。</li> <li>○教育課程の見直しを行い、次年度からの新体制に向けた準備を整えることができた。</li> <li>▲SNSによる生徒間のトラブルへの対応。</li> <li>▲一部の会議（主任会、教科会）において定期的な開催が困難な時期があった。</li> </ul>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改定した教育課程を継続的に検証し、作業学習の内容を含め、更なる改善を検討する。</li> <li>・SNSの適切な利用方法や、トラブル対処法について、定期的な学習機会を設け未然防止に努める。</li> <li>・年度当初に会議日程を確実に設定し、組織的な運営体制を維持する。</li> </ul>

評価する領域・分野	教務部 学習指導、教育課程、教育環境、個別の指導計画・支援計画
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動及び学習指導について一定の理解を得ている。</li> <li>・学校施設の狭あい化により、教育環境については否定的な意見が多い。</li> <li>・学年が上がるに従い、教育方針や個別の支援計画の作成、個別懇談について、肯定的な回答の割合が減少傾向にあり、より丁寧な説明や対話が必要である。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒一人一人の能力や個性を最大限発揮できる、個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成を推進する。</li> <li>・校内外の作品展示を通じ、児童生徒の能力や個性を積極的に発信する。</li> <li>・限られた環境の中でも、児童生徒が安心して学べる環境作りを推進する。</li> </ul>

重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の教育支援計画及び指導計画の的確なチェック体制の構築。</li> <li>・校外作品展における全校的な協力体制の構築。</li> <li>・各部の教務主任による円滑な連携。</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部における個別の支援計画および指導計画の記入方法に関する共通理解。</li> <li>・作品展の出品準備から搬入・搬出まで、分掌全体による協力体制で実施する。</li> <li>・毎月、部教務会を実施し、情報共有を図る。</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒一人一人の能力や個性を最大限発揮できる個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成することができたか。</li> <li>・校内、校外作品展展示を分掌全体で取り組むことができたか。</li> <li>・各部教務主任の連携により、限られた教室を有効活用し学習環境を整えられたか。</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の教育支援計画および指導計画の記入方法について、各部教務主任が共通理解を図った。</li> <li>・教業務内容を精選し、担当者任せにならないよう進捗を確認しながら進めた。</li> <li>・毎月の部教務会で各部の状況を共有し、特別教室の活用方法を検討・実施した。</li> </ul>
評価の視点	評価
①児童生徒一人一人の能力、個性を最大限発揮できる個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成することができたか。	A (B) C D
②校内、校外作品展展示を分掌全体で取り組み、業務を円滑に遂行できたか。	(A) B C D
③各部教務主任が連携をとりながら限られた教室を活用し学びの環境を整えられたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>○個別の指導計画は、目標及び評価の記入について一定水準まで達することができた。</p> <p>○作品展は今年度から教務部の業務となったが、業務精選を行いながら円滑に遂行できた。</p> <p>○定例の部教務会により、各学部の課題共有と連携した業務遂行ができた。</p> <p>▲個別の教育支援計画の目標設定において具体性を欠く面があるため、校内研修が必要である。</p> <p>▲新たに確保した特別教室の管理（整理整頓等）に課題が残った。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の教育支援計画の記入方法に関する研修を実施する。</li> <li>・毎月の部教務会の継続し、情報共有を強化する。</li> <li>・一人一台のタブレット端末の効果的な活用方法を検討・実施する。</li> </ul>

評価する領域・分野	情報教育推進部 ICT 活用の推進、研修、教育環境整備
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育方針や指導内容の伝達に関する肯定的な回答は 82.0%であった。今後、ホームページによる情報発信の工夫によりさらなる改善を図ることができる。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT 機器活用の研修を定期的実施し、教員の授業実践を推進する。</li> <li>・ICT 機器を活用した授業実践の発信や、活用したアプリ等の教育的効果を検証する。</li> <li>・ICT 機器を授業で活用できるような体制を整える。</li> <li>・年間計画に基づきホームページを活用した情報発信に努め、児童生徒の様子を保護者や地域へ積極的に伝える。</li> </ul>

重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修部と連携した ICT 研修の計画作成。</li> <li>・他校の ICT コアティーチャーと連携。</li> <li>・事務部と連携した校内機器の故障把握および報告の徹底。</li> <li>・ホームページ記事作成担当者への周知徹底。</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新転任者・初任者に対し、校内の ICT 機器の整備状況や取り扱いに関する研修を実施した。</li> <li>・外部講師を招いた夏季休業中の職員研修や、職員会議後の著作権・機器活用に関する研修を実施した。</li> <li>・指導者用タブレットの導入に伴い、使用ルールを定め適切に使用できるよう推進する。</li> <li>・年間計画に基づき、行事後のホームページ記事作成・掲載を推進した。</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修等に参加人数および授業や業務での活用状況。</li> <li>・ホームページ更新状況（年間計画に基づく進捗確認）。</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT 機器に関する各種研修（ICT 機器の取り扱い、著作権、活用に関する研修）の実施。</li> <li>・ホームページの「学習・活動の様子」への継続的な記事掲載。</li> </ul>
評価の視点	評価
① 授業や業務で ICT 機器を適切に活用しているか。	Ⓐ B C D
② 児童生徒用タブレット端末へアプリをインストールし、授業で活用しているか。	Ⓐ B C D
③ 行事後にホームページの記事を更新しているか。	A Ⓑ C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒用および指導者用タブレット端末を整備した。</li> <li>○児童生徒の実態に応じたアプリのインストールと授業での活用ができた。</li> <li>▲ホームページを利用し、保護者や地域へより分かりやすく伝えるための内容の工夫が必要である。</li> </ul>	A Ⓑ C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な時期に定期的に ICT 研修を継続し、指導者用端末の活用方法に関する内容も取り入れる。</li> <li>・保護者や地域へ本校の教育活動がよりに分かりやすく伝わるよう、ホームページの在り方を改善する。</li> </ul>

評価する領域・分野	研修部 専門性向上、授業研究・校内研修
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に関する領域の（実態に即している内容、体験的な活動、一人一人に合った教材・教具の準備）において、いずれも 80%以上の肯定的な評価を得た。教職員の研究・研修活動とそれを生かした実践がおおむね評価されている。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育の専門的知識・技能を高める研修の計画的な実施と、指導力の向上を図る。</li> <li>・的確な児童生徒の実態把握に基づく授業づくりと、授業に関する活発な意見交流ができる場の創出。</li> <li>・児童生徒の学びを深めるための ICT 機器等の積極的な活用を推進する。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な情報共有や意見交換ができる「学びあいの文化の醸成」を意識した研究グループの設定。</li> <li>・働き方改革と並走できる有効な研修体制の模索と実践。</li> <li>・ICT 機器等の積極的な活用につながる研修の充実。</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修のマネジメント（研修体制、時期、対象職員の整理）。</li> <li>・校内外の研修情報の随時共有。</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究等を通じた授業実践の取り組みと成果のまとめ。</li> <li>・研修活動の事後アンケート結果。</li> </ul>

取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の的確な実態把握や指導目標の明確化を意識した授業研究活動の実施。</li> <li>・校外での研修で得た専門的な成果を校内で共有・還元した。</li> <li>・ICT 機器等に関する研修会の定期的な開催および職員図書の実践。</li> </ul>
評価の視点	評価
① 研修活動を通して、児童生徒の的確な実態把握や指導目標の明確化を意識できたか。	A (B) C D
② 教職員の研修の取り組み状況。	(A) B C D
③ ICT 機器等の積極的な活用は促進されたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>○研究グループを中心とした授業研究活動の中で関連な意見交流ができた。</p> <p>○教職員が安心して計画的に研究・研修活動に取り組むことができた。</p> <p>▲ICT 機器等の積極的な活用につながるさらなる研修の充実。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が自らのキャリアステージに応じ必要とされる専門性を意識し、主体的に研修へ取り組める仕組みづくりを推進する。</li> <li>・年度当初には、校内研修計画を明示し、必要に応じて研修に関する情報を即時提供とともに、今後、必要不可欠となる ICT 機器等の積極的な活用につながる研修の充実を図る。</li> </ul>

評価する領域・分野	生徒指導部 児童生徒支援、交流活動、いじめ防止、関係機関との連携
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校では、いじめや差別を許さず、厳しく対応している」という項目について、多くの肯定的回答を得ているが、一方で「わからない」との回答も多い。取組についてより一層の周知が必要である。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の一員として必要な資質や能力を育む場として、行事や委員会、MLS 活動、部活動を推進する。</li> <li>・集団の中で活動する良さを感じ、望ましい人間関係を築けるような態度を育成する。</li> <li>・自分の良さに気付いたり、自己決定の場を設定し自らの行動に責任をもったりする態度を育成する。</li> <li>・自他の生命を尊重し、倫理観や規範意識を体得できるよう、組織的な支援にあたる。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒会活動や委員会活動等、部を越えた交流・活動の設定。</li> <li>・日常生活の様子や保護者との連絡帳、各種アンケート、スクールカウンセラーによるカウンセリング結果の結果に基づいた児童生徒支援。</li> <li>・分掌会、学部会、職員会議等での情報共有。</li> <li>・関係機関との情報共有、対応の連携。</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学部、高等部合同の委員会活動の設定や児童生徒会の充実。</li> <li>・各種アンケート、スクールカウンセラーによるカウンセリング、教育相談週間等の定期的な実施。</li> <li>・職員会議や学部会における児童生徒の情報交換。</li> <li>・関係機関（地域担当生徒指導主事、市、子ども相談センター等）との情報共有や連携した支援。</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会活動等における児童生徒の活動の様子や取組状況。</li> <li>・各種アンケート等を通じた児童生徒の理解や支援。</li> <li>・職員、関係機関との児童生徒の情報共有及び組織的な対応状況。</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会活動をはじめ、さまざまな活動において部の交流を計画し実行した。</li> <li>・各種アンケート等を計画通り実施し、結果を担任や部主事と共有した。</li> <li>・職員会議、学部会等において情報共有を行い、関係機関と積極的に、連携して対応した。</li> </ul>

評価の視点		評価
①児童生徒が学部を越えて積極的に交流することができたか。		A (B) C D
②職員が児童生徒の実態把握に努め、支援につなげることができたか。		A (B) C D
③職員や関係機関と情報を共有し、連携して対応することができたか。		A (B) C D
成果・課題		総合評価
○様々な活動において、部を越えた交流を検討し、交流の機会を増やすことができた。 ○関係機関との情報交換、情報共有を密に行い、連携して対応することができた。 ▲生徒指導だよりの発行を行ったが、いじめ防止対策をはじめとする、各種の取組について保護者へ周知が不十分であった。		A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より積極的に児童生徒の交流の場を設定する。</li> <li>・いじめ防止対策の取組をはじめとする、生徒指導の取組について、保護者への周知を強化する。</li> </ul>	

評価する領域・分野	健康支援部 保健・安全教育、危機管理、学校安全環境
現状及びアンケートの結果分析等	・健康管理や緊急時の対応に関する項目において、養護教諭や管理職との連携、保護者連絡がおおむね評価されており、安心感につながっていると考えられる。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康教育において、児童生徒の実態に応じて日常生活の指導、生活単元学習、保健体育等で計画的に実施する。</li> <li>・緊急時の対応に備えて、救急法やアレルギー対応等の初期対応訓練・職員研修を実施し、理解を深める。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康教育（性教育、食育、感染症予防等の衛生指導）や環境整備を年間計画に基づき実施する。</li> <li>・緊急時対応訓練では、時間や場所等の様々な場面を想定し、具体的で実践的な体制を確認し備える。</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康教育を年間指導計画に取り入れ、実態や発達段階に応じた実施。</li> <li>・グラウンドの砂補充等の環境整備。</li> <li>・緊急時対応訓練と土岐市北消防署における普通救命法講習。</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康教育における児童生徒の取り組み姿や授業後の変容。</li> <li>・様々な場面における緊急時対応について、意識を高めることができたか。</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康教育の計画的な実施と授業記録の作成。</li> <li>・緊急時役割カード使用やアレルギー対応を含めさまざまな場所や状況を想定した初期対応訓練の実施。</li> </ul>

評価の視点		評価
① 健康教育では、児童生徒の実態や発達段階に応じた授業内容を工夫し、計画的に実施することができたか。		A (B) C D
② 緊急時対応訓練、心肺蘇生法等を通して、安心安全な学校生活について危機管理に対する意識や資質を深めることができたか。		A (B) C D
成果・課題		総合評価
○健康教育は、児童生徒の実態や発達段階に応じた授業や教材、環境整備をすすめ計画的に実施することができた。 ▲インシデント報告を改善し、環境整備や危機管理について随時周知した。一部周知事項が徹底されていないことがあったため、今後さらに具体的に確認していく必要がある。		A (B) C D

来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康教育における教材の充実と活用を図る。</li> <li>インシデント・アクシデント報告の活用により、安全意識の向上と安全教育を推進する。</li> </ul>
---------------	--

評価する領域・分野	防災安全部 訓練、備蓄・設備管理、保護者連携
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>非常事態への対応や備蓄状況について、保護者への周知が十分でない面がある。</li> <li>マニュアルは整備されているが、職員の動きの具体化や周知に課題がある。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>非常時に落ち着いて命を守る行動をとり、支援を受け入れられるようにする。</li> <li>学校全体における防災教育のさらなる充実を図る。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	消防、防災計画、命を守る訓練、非常変災時対応、防災教育啓発を柱とした分掌業務の分担
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>年3回の命を守る訓練と、定期的なショートの訓練の実施</li> <li>外部指導者による防災授業の実施</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	訓練実施後の職員アンケート結果。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震、火災を想定した訓練を、計画的に実施することができた。</li> <li>教師や児童生徒の防災意識を高めるための事後指導の在り方や、教材等、防災教育・啓発の推進に課題が残る。</li> </ul>
評価の視点	評価
①即座に命を守る行動をするための、適切な訓練の想定や内容であるか。	A (B) C D
②防災意識を高めるための指導内容、教材等が検討できたか。	A (B) C D
③保護者と連携した、非常時の対応となっているか。	A B (C) D
成果・課題	総合評価
○定期的な命を守る訓練の実施を行った。訓練時の職員の動きをできるだけ具体的に分かりやすく計画することができた。 ▲防災意識を高めるための事後指導の内容が十分ではなかった。	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者や地域と連携した取組の充実を図る。</li> <li>防災教育の啓発活動の充実を図る。(教材、訓練内容等)</li> <li>備蓄品の管理、充実を図る。(携帯トイレ等)</li> <li>防犯に関する業務を生徒指導部へ集約してはどうか。</li> </ul>

評価する領域・分野	進路支援部 キャリア教育、関係機関との連携、進路情報の提供
現状及びアンケートの結果分析等	進路情報提供について、9割を超える高い肯定的な評価を得た。引き続き、情報発信の内容を精査し、教職員の専門性の向上を図りながら、関係機関との連携を深める。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の個別のニーズの把握と、進路希望、キャリア教育・職業教育の意義(目的)の共通理解をすすめる、数年先を意識した教育活動の充実を図る。</li> <li>地域生活の安定を目指し、関係機関と密に連携し、職場定着及び生活支援につなげる。</li> <li>公共のルールやマナーの習得や、関係機関の役割理解を通して、危機管理意識や相談先の確立に努める。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年および各担任との積極的な情報共有。</li> <li>関係機関との連携事業における複数主務者の配置。</li> </ul>

目標の達成に必要な 具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の成長を振り返ったり、将来の生活について考えたりする機会の設定。</li> <li>・進路ガイダンスや、関係機関との情報共有・協力事業の計画的な実施。</li> <li>・教職員向けの情報発信の方法や研修の見直し。</li> </ul>
達成度の判断・判定 基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望の実現状況や決定時期。</li> <li>・保護者向け懇談会、説明会への参加状況や学校評価アンケートの結果。</li> <li>・教職員の進路情報への関心や理解度。</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望調査やキャリア・パスポートの活用、進路通信（年6回）の発行を計画的に行った。</li> <li>・市役所（福祉課）や公共職業安定所等の関係機関との情報共有の場を適切な時期に設定した。また、外部講師による授業や福祉サービス事業所合同説明会等を実施した。</li> <li>・グループウェアを使用した事業所広報の回覧、職員施設見学、高等部教職員（学年毎）向けの説明会を実施した。</li> </ul>
評価の視点	評価
①児童生徒が自身の成長や卒業後の生活に関心をもち、行動する姿が見られたか。	A <input checked="" type="radio"/> B C D
②保護者や関係者が、見通しをもって手続きを進められたか。	A <input checked="" type="radio"/> B C D
③教職員が、進路への知識や理解を深め、教育活動に生かすことができたか。	A <input checked="" type="radio"/> B C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>○キャリア・パスポートの活用が定着した。多くの高等部3年生が12月までに、進路先の内定を得たり、方向性を固めたりすることができた。</li> <li>○手続き等について、担任から進路支援部への相談が増え、組織的な支援が進んだ。また、作業学習について、教員が積極的に話し合ったり、作業室の環境整備を行なったりする姿勢が増えた。</li> <li>▲教職員がより主体的にキャリア教育や進路支援について学べる機会の充実。</li> </ul>	A <input checked="" type="radio"/> B C D
来年度に向けての 改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関との連携方法（会議時期、情報共有の内容、役割分担等）の見直しを行う。</li> <li>・「キャリア教育」「障害者総合支援法」「作業学習」「当校の進路支援」等をテーマとした研修会を計画・実施する。</li> </ul>

評価する領域・分野	渉外部 PTA 活動の支援、地域との連携・啓発
現状及びアンケート の結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育方針の伝達について、86.8%の肯定的な回答を得た。PTA広報誌への写真掲載に協力し、視覚的な情報発信をしたことが教育活動への理解を深め、意識の啓発につながった。</li> </ul>
今年度の具体的かつ 明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者同士の親睦や相互理解を深められる支援を行う。</li> <li>・本校の取り組みや地域貢献への理解を広める。</li> </ul>
重点目標を達成する ための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当の教員を各部に配置し、PTA役員と密な連絡体制を構築する。</li> <li>・教員間の円滑な情報共有を図ることでPTA活動支援を展開する。</li> </ul>
目標の達成に必要な 具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTAが企画する研修会や施設見学の計画において、学校組織の分掌（進路、健康支援等）と連携を図る。</li> <li>・市役所との意見交流会の継続、PTA会報の計画的な発行、「すぐーる」を積極的に活用する。</li> </ul>
達成度の判断・判定 基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の肯定的回答率を基準とし、広報活動の質的向上させることで、肯定的回答率のさらなる向上を図る。</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市役所との意見交流会では、要望を伝えたり情報提供を依頼したりした。</li> <li>・「イオン黄色いレシートキャンペーン」では、高等部の「地域貢献」をテーマとした啓発ポスターを作成し、店頭への掲示を通して地域社会へ周知する活動を実施した。</li> </ul>

評価の視点	評価
① 地域を意識できた活動ができたか。(意見交流会、地区懇談会等)	A (B) C D
② PTA活動に参加した人が満足できたか。(施設見学、研修会等)	A (B) C D
③ 活動啓発を通じ、地域社会の理解を深められたか。(イエローシートキャンペーン、福祉振興大会)	A (B) C D
成果・課題	総合評価
○研修会や施設見学の回数を増やして計画し実施した。PTA役員を中心に主体的な参加が見られ、部を超えて話をする保護者同士の交流が活発化した。 ▲PTA活動の必要性が伝わっていないという意見が一定数見受けられる。	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA団体と協力し合い、子どもたちの学校生活がより伝わるよう学校と家庭をつなぐ情報提供の協力を進める。</li> <li>・施設見学や研修会は、会員のニーズを反映した参加しやすい企画へと見直し、PTA活動の意義を実感できる機会を創出する。</li> </ul>

評価する領域・分野	地域支援センター部 センターの機能、交流及び共同学習、関係機関との連携
現状及びアンケートの結果分析等	・関係機関との連携、交流の重視等の項目において高い肯定的評価が得られた。放課後等デイサービス等の関係機関との情報共有やケース会議、各部での積極的な交流を実施したことで理解が得られた。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切なアセスメントに基づいた教育的助言や、支援者間の情報共有を推進する。</li> <li>・交流および共同学習を推進し、地域の一員として地域社会とのつながりを強化する。</li> <li>・行政、医療、福祉との連携を強化し、包括的な支援の一端を担う。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	・特別支援教育コーディネーター(校外支援)および各部コーディネーター(校内支援)の配置、各部の相談窓口の設置。
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の関係機関等からの依頼に応じた継続的な相談・支援業務。</li> <li>・交流相手と連携した計画的な共同学習の実施。</li> <li>・各部コーディネーターと各部主事が連携しケース会議等を実施。</li> <li>・地域連携会議、福祉関係機関向けの授業見学、個別ケース会議等の実施。</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談の依頼件数、相談支援後の報告書等による検証。</li> <li>・各部のケース会議や関係機関との連携会議等の実施状況。</li> <li>・地域連携会議、福祉関係機関向けの授業見学等の事後アンケート結果。</li> <li>・共同学習での児童生徒の様子。</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・依頼に応じて訪問支援やオンライン相談、学校見学の受け入れ等の業務を遂行した。</li> <li>・各部主事や担任と連携し、ケース会議を実施した。夏季休業中には地域連携支援会議を実施した。</li> <li>・地域連携支援会議、個別ケース会議、学校見学等を実施し、関係機関とのネットワーク強化を図った。</li> <li>・交流籍交流、学校間・地域交流、高・特交流を実施した。</li> </ul>

評価の視点	評価
①相談の依頼に応じた助言により、地域の特別支援の質の向上が高められたか。	A (B) C D
②関係機関との連携は支援者の役割分担を含め、適切な支援につながったか。	(A) B C D
③交流学習や共同学習は児童生徒が「充実感」を味わえる内容になっていたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
○訪問支援やオンライン相談の依頼の回数が増えた。新たな園や学校等からの支援や職員研修の依頼が増えた。 ○東濃圏域ネットワーク会議と連携し、地域課題に即した研修を実施したり、情	A (B) C D

<p>報発信をしたりすることができた。</p> <p>○交流について手続きを見直したことで、スムーズ進めることができた。</p> <p>○多くのケースで早い段階から部コーディネーターがケースに関わり、生徒指導部や外部機関と連携して対応することができた。</p> <p>▲交流及び共同学習の教育的意義を保護者や地域へより具体的に伝える工夫が必要である。</p>	
<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関との連携や交流及び共同学習の取り組みについて、目的、内容、成果を整理し、保護者や交流校に分かりやすく発信する。</li> <li>・各部のコーディネーターを中心とした校内外の連携体制を一層強化し、医療・福祉・行政などとの情報共有の充実を図る。</li> <li>・各市のコーディネーター会と連携し、地域のニーズに即した研修や情報発信を実施する。</li> </ul>

<p>評価する領域・分野</p>	<p>舎務部 寄宿舎運営、生活指導、学校・家庭との連携</p>
<p>現状及びアンケートの結果分析等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の教育支援計画を保護者や関係機関と連携して作成し、将来を見通した支援を行っているという項目において、肯定的な回答が93.2%と高い評価を得た。</li> <li>・寄宿舎における個別の支援計画の作成や定期的な保護者懇談等を通じた丁寧なかかわりが、将来を見据えた支援として評価されている。</li> </ul>
<p>今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴や掃除、洗濯等、日常生活のスキルの習得に向け、一人一人の実態に応じた個別の取組を推進する。</li> <li>・寄宿舎での経験を家庭生活へとつなげ、将来の自立に向けた基盤づくりを行う。</li> </ul>
<p>重点目標を達成するための校内組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導員部会、チーフ会、分掌会（運営、舎生支援）、グループ会を通して寄宿舎運営および、舎生支援の質の向上を図る。</li> <li>・保護者や担任との連携および保護者との密な懇談を継続する。</li> </ul>
<p>目標の達成に必要な具体的取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寄宿舎における個別の支援計画の作成と支援グループによる組織的な実施。</li> <li>・保護者や担任との定期的な懇談の実施および情報共有。</li> </ul>
<p>達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寄宿舎および家庭の双方において基本的な生活習慣が定着し、落ち着いて生活できているか。</li> <li>・卒業後の社会参加に向けた活動に、主体的に取り組んでいるか。</li> </ul>
<p>取組状況・実践内容等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活における実態や支援について、保護者、担任と情報を共有し、支援の継続性を確保した。</li> <li>・保護者、担任と連携した自力通学に向けた指導を実施した。</li> <li>・家庭生活への適応や家庭からの通学への定着を目的とした、週中帰省の実施と事後評価を行った。</li> </ul>
<p>評価の視点</p>	<p>評価</p>
<p>① 保護者や担任との定期的な情報共有、共通理解を図ることができたか。</p>	<p>A (B) C D</p>
<p>② 実態に応じた支援の工夫と実践を行っていくことができたか。</p>	<p>A (B) C D</p>
<p>③ 支援の評価と改善を適宜行っていくことができたか。</p>	<p>A (B) C D</p>
<p>成果・課題</p>	<p>総合評価</p>
<p>○自力通学指導や週中帰省の実施により、家庭からの通学や将来の就労先への通勤を見据えた具体的なスキル習得につなげることができた。</p> <p>○退舎後および卒業後の生活を視野に入れ、保護者や担任と連携した取組ができた。</p> <p>▲指導員間の情報共有不足や現状認識の相違から、支援内容の振り返りや改善に不十分な点があった。</p>	<p>A (B) C D</p>

来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度は、舎生が1名となる状況を最大限に活かし、個別のニーズに寄り添う丁寧な支援を行う。日々の情報共有を行い、全指導員が共通理解のもとで支援にあたる体制を構築する。</li> <li>・支援の評価や改善を適切に行うため、検討の場や保護者懇談を迅速に設定し、きめ細やかな対応に努める。</li> </ul>
---------------	--

### 学校関係者評価 (令和8年2月2日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の回答率は55.7%であったが、今年度は94%という高い回答率となった。アンケート協力のお願い文書の添えたQRコードに加え、学校連絡ツール「すぐメール」からの直接回答を可能にしたことで、利便性が高まり、多くの回答に繋がったと考えられる。</li> <li>・全30項目のうち14項目で90%以上の肯定的評価を得た。特に「一人一人のよさを伸ばす工夫」や「個別の教育支援計画の作成」が高く評価されており、卒業後の自立を見据えた教育実践が保護者の安心感につながっている。</li> <li>・教職員の熱意や愛情についても90%以上の評価が得られた。児童生徒アンケートにおける「先生は親切」「みんなを信頼している」との高い評価とも呼応しており、良好な信頼関係が築けていることが確認できた。</li> <li>・働き方改革については40%が「わからない」と回答した。教職員の心身のゆとりが安全確保や教育の質の向上につながることを、今後も丁寧に発信し共通理解を深めていく必要がある。</li> <li>・否定的な回答が10%を超えた項目、施設設備の狭あい化および自己評価の伝え方であった。情報発信の方法を改善するとともに、教職員の工夫だけでは解決が困難な環境改善についても、喫緊の課題として継続的に認識していく。</li> <li>・肥田小学校や高等学校との長年の交流は児童生徒に好影響を与えており、今後も継続していくことが望ましい。</li> <li>・アンケートにおける「わからない」という回答については、評価に必要な情報が十分に伝わっていないことや、質問内容の難しさが要因として考えられる。次年度は教育活動の可視化をさらに進めるとともに、より回答しやすい設問となるよう内容を精査することが求められる。</li> <li>・SNS利用指導や情報モラル教育、交通安全教室などの自立に不可欠な取組は、保護者・地域の安心感につながっており、今後も継続して実施してほしい。</li> <li>・企業連携による販売活動や学部を越えた交流など、児童生徒が「わくわく感」や「楽しさ」を感じる活動を具現化し、次年度の教育活動へ反映させることが期待される。</li> </ul>
--